――リコンフィギャラブルシステム小特集（英文論文誌 D）論文募集――

リコンフィギャラブルシステム小特集編集委員会

電子情報通信学会は，情報・システムソサイエティの英文論文誌 IEICE Transactions on Information and Systems の 2019 年 5 月号において，リコンフィギャラブルシステム小集（Special Section on Reconfigurable Systems）を企画しています．リコンフィギャラブルシステムに関連する幅広い研究分野の未発表オリジナル論文を募集します．奮って御稿下さい．

情報通信のディジタル化の進展にともない，柔軟かつ低消費エネルギーな高性能計算システムへの要望がますます高まっており，その実現手段としてリコンフィギャラブルシステムが注目されています．小規模単純な論理を簡便に実現する手段であった当初のプログラマブル論理素子（PLD）や FPGA は，いまや複雑高度なシステム・オン・チップに進化し，また，動的再構成といった革新的な能力も獲得しています．更に，従来のプログラマブル論理の概念を打ち破る様々なリコンフィギャラブル・アーキテクチャが提案されています．性能，柔軟性，消費エネルギー，信頼性，などの観点から，更なる進化が求められています．それらデバイス上で計算を行う回路の設計に際して，従来のソフトウェア用コンパイラや回路設計ツールのための技術では動的再構成などの新しい概念に対応することはできず，そのための設計技術の研究開発も不可欠です．実利用と普及に向けて，実問題への適用事例を積み重ね知見を共有して更なる発展をはかることも重要な課題の一つです．本小特集は，それらリコンフィギャラブルシステムに関する最新の研究開発を紹介することを目的とします．

・対象分野

以下に挙げる分野を含めて，またこれらに限らず，リコンフィギャラブルシステムに関連する論文を幅広く募集します．

・リコンフィギャラブルシステム，プロセッサ，アーキテクチャ，デバイス
・FPGA，PLD
・動的再構成可能システム，再構成技術，仮想ハードウェア，適応的ハードウェア
・リコンフィギャラブルシステムのためのデバイス技術，回路技術
・低消費エネルギー，非同期，高信頼リコンフィギャラブルシステム
・リコンフィギャラブルシステム向けシステムソフトウェア
・リコンフィギャラブルシステム向け設計・検証技術，高位合成，設計事例
・リコンフィギャラブル技術の応用（高性能計算，IoT，機械学習，AI，ビッグデータ，クラウドコンピューティングなど）

・投稿要領

・投稿の締切りは 2018 年 7 月 20 日（JST）厳守です．
・投稿に関する規定詳細は“The Information for Authors”（http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html）を御確認下さい．標準的な原稿ページ数は，一般論文で 8 ページ，レターで 2 ページです．
・投稿論文の提出は本会のウェブサイト（https://review.ieice.org/regist_e.aspx）から行って下さい．電子メールや郵便での提出は受付致しません．提出に際して，“Journal/Section”のリストから“[Special-RC] Reconfigurable Systems”を選んで下さい．

・編集委員会

委員長　本村真人（北大）
幹　事　佐藤幸紀（東工大），柴田裕一郎（長崎大）
委　員　天野英晴（慶大），飯田全広（熊本大），井口　寧（北陸先端大），井上浩明（NEC），泉　知論（立命館大），密山幸男（高知工科大），中原啓貴（東工大），長名保範（琉球大），佐野健太郎（理研），谷川一哉（広島市立大）

・問合せ先

柴田裕一郎
長崎大学大学院工学研究科電気・情報科学部門
E-mail：reconf2019-kanji@pca.cis.nagasaki-u.ac.jp

・注意事項

＊投稿に際し，著者のうち少なくとも 1 名は本会会員でなければなりません．投稿資格を満たしていない投稿論文については，投稿を受け付けませんので御注意下さい．入会案内は以下にございます．http://www.ieice.org/jpn/

nyukai/index.html

＊Web による電子投稿の際，“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”に承諾して頂きます．

＊招待論文を含むすべての著者は，論文が採録となった場合，2019 年 1 月頃に掲載料をお支払い頂くことになります．
2019 年 2 月 15 日までに支払いが完了しない場合には，採録取り消しとなります．

＊情報システムソサイエティ英文論文誌は，2017 年 1 月よりオープンアクセス化されています．
J-STAGE（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/transinf/）に掲載されている論文はすべて閲覧可能になっています．